

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●イクイノックスがレコードタイムで天皇賞(秋)連覇

10月29日(日)に行われた天皇賞(秋)(G1)ではイクイノックス(牡4歳/美浦・木村哲也厩舎)が優勝、同レース連覇を果たしました。天皇賞(秋)連覇は2002年・2003年シンボリクリスエス、2019年・2020年アーモンドアイに次いで史上3頭目。勝ちタイムの1分55秒2は、2011年の天皇賞(秋)でトーセンジョーダンが記録した1分56秒1をコンマ9秒更新する3歳以上・芝2000mの中央競馬レコードタイムとなります。

●戸崎圭太騎手がJRA年間100勝を達成

10月29日(日)の4回東京9日・第6レースではマルディランダが1着となり、同馬に騎乗した戸崎圭太騎手(美浦・田島俊明厩舎)は、2年連続9回目となるJRA年間100勝を達成しました。本年の年間100勝達成は、川田将雅騎手、C.ルメール騎手、横山武史騎手に続いて4人目のこととなります。

●丹内祐次騎手が秋の新潟リーディングジョッキーを獲得

10月29日(日)をもって4回新潟競馬が終了し、9勝をあげた丹内祐次騎手(美浦・フリー)が開催リーディングジョッキーとなりました。

●熊沢重文騎手が引退、京都で引退式を実施

JRA歴代1位となる障害レース通算257勝(10月29日現在)、JRA史上初の平地・障害双方200勝、平地・障害双方G1勝利といった記録を達成した熊沢重文騎手(栗東・フリー)が、11月11日(土)付で騎手免許を取り消し、引退することとなりました。同日の3回京都3日16時40分頃、京都競馬場のウイナーズサークルにおいて引退式が実施される予定です。

●山田敬士騎手が引退

山田敬士騎手(美浦・フリー)が10月26日(木)付で引退しました。JRA通算成績は1982戦40勝でした。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●エーデルワイス賞(門別)は地元の伏兵モズミギカタアガリ

エーデルワイス賞(JpnⅢ、11月1日、門別、1200m)は、最後方から追い上げた10番人気の北海道所属馬モズミギカタアガリ(黒澤愛斗騎手、牝2歳、父グランプリボス)が、ゴール前で1番人気のスティールマジック(北海道)を差し切りました。ムームは5着、ホーリーブライトは8着、ワイノナオミは9着、初ダートながら3番人気に推されたスカイキャンパスは最下位の14着でした。

●新設競走のネクストスターがスタート【各地の主要2歳重賞】

全日本的なダート競走の体系整備に伴い、南関東地区を除く全国8道県で新設された2歳の重賞級認定競走(全て重賞)、ネクストスターは、地元所属馬限定、JRAからの移籍馬は出走不可、1着賞金1000万円という条件で実施されます。ネクストスター金沢(9月24日、金沢、1400m)は、逃げたダヴァンティ(牝、父ダノンレジェンド)が2馬身半差で完勝、単勝1.4倍の支持に応じて無傷の3連勝を達成しました。ネクストスター佐賀(10月1日、佐賀、1400m)は、4、5番手を進んだ3番人気のウルトラノホシ(牡、父ホッコータルマエ)が直線半ばで差し切って重賞初制覇。ネクストスター盛岡(10月3日、盛岡、1400m)は、単勝1.1倍で圧倒的人気のフジューズ(牡、父ゴールデンパローズ)が出遅れから巻き返して4番手に取り付き、直線に入って間もなく抜け出すと後続に1秒9の大差を付け、デビュー以来の連勝を4に伸ばしました。ネクストスター門別(10月5日、門別、1200m)は、3番手から差を詰めた1番人気のトラジロウ(牡、父ダノンレジェンド)がゴール前250mで逃げ馬を捉え、2戦目から5連勝を達成しています。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1コックスプレート〜香港のロマンチックウォリアーが制す

現地10月28日にオーストラリア・ヴィクトリア州のムーニーバレー競馬場で行われたG1コックスプレート(3歳上、芝2040m)は、J.マクドナルド騎手が手綱を取った香港調教馬ロマンチックウォリアー(騾5歳、父アクラメーション、C.シャム厩舎)が4番手追走から直線未脚を伸ばし、最後は内から伸びてきたG1ドンカスターマイル連覇の強豪ミスターブライツサイドを0.1馬身差かわして優勝しました。香港調教馬初のコックスプレート制覇を果たしたロマンチックウォリアーはこれで2022年のG1香港カップ(芝2000m)、22年、23年と連覇したG1クイーンエリザベス二世C(芝2000m)に続くG1・4勝目。オーストラリアでの初戦となった10月7日の前走G1ターブルSは4着でしたが、ひと叩きして本領を發揮しました。

●G1フューチュリティ〜アンシエントウィズダムが優勝

今年最後のイギリス平地G1であるフューチュリティトロフィー(2歳牡牝、芝1600m)が10月28日にドンカスター競馬場で行われ、W.ピュイック騎手が騎乗したゴドルフィンのアンシエントウィズダム(牡2歳、父ドバウイ、C.アップルビー厩舎)が優勝しました。アンシエントウィズダムは欧州年度代表馬ゴルディコヴァの近親で、1歳時に200万円(当時のレートで約2億8400万円)で落札。前走10月14日のG3オータムS(芝1600m)で重賞初制覇を果たしていました。